



# インフォメーション・コーナー



## 会 告

平成 19 年度農業土木学会大会講演会の開催について 	82
「農業土木学術基金」の募金について（再）	83
平成 19 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について（再）	84
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い	84
学会誌掲載報文等による通信教育について	85
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のご希望と国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	85
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のご希望と編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ	86
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！	87
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集	88
<b>学会記事</b>	89

## 農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 8 月 28～31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会講演会 		松江市	74 巻 12 号 75 巻 1 3 号
平成 19 年 9 月 6, 7 日	農村計画研究部会	第 29 回現地研修集会 		奈良市	75 巻 2 号

### 第 75 巻 4 号予定

**展望：**災害復旧，防災体制の強化に向けて 新潟県中越地震を教訓として : 永嶋 善隆

**小特集：**新潟県中越地震の復興対策と危機管理（農村復興）

中越大地震における養鯉池の被災と復旧方策：野口 寧代他

中越大地震地域における地域特性と農地被災実態 旧山古志村大久保・池谷地区を中心として : 星川 和俊他

災害時における農村コミュニティ機能 中越大震災地域の事例から : 福与 徳文他

中越大震災時において集会場が果たした避難機能：有田 博之他

大規模災害時におけるより迅速かつ的確な災害対応について：島 尚土他

### 技術リポート

北海道支部：本川背水影響に配慮した低平地排水路の設計：徳井 順

東北支部：環境に配慮した圃場整備事業における住民活動の事例：保坂 光彦他

関東支部：官学連携による相模川左岸幹線水路のコンクリート損傷度評価：仲里 義光他

京都支部：ダム貯水池流入間伐材の膨軟処理による法面植生工法：足立和二郎

中国四国支部：橋梁下部工補修の事例紹介について：村中 郁夫他

九州支部：ため池底樋施工の留意点：林 正興

**講座：**生態系配慮の基礎知識（その 1）：農村地域の自然を守る意味：守山 守

**小講座：**災害査定：木下幸弘

**私のビジョン：**コンクリート水路の機能診断における官学連携の試み：鈴木 哲也

## 平成19年度農業土木学会大会講演会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成19年度農業土木学会大会講演会は、平成19年8月28日(火)、29日(水)、30日(木)の3日間、松江市の島根大学松江キャンパスを中心に開催されます。また、31日(金)には、現地研修会を実施する予定です。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での講演申込みについては、本誌2007年1月号会告をご覧ください。

なお、講演発表を申込みされた方も、別途、参加の申込みが必要です。

ご注意いただきたい点

平成19年6月29日(金)までに参加申込みをいただき、7月31日(火)までに参加費の入金を確認された場合に限り、参加費の割引があります。

6月29日(金)までに予約参加申込みをいただいた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は6月29日(金)までの申込み数だけしか作成しません。締切日以降の予約はできません。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演発表の概要(200字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。

インターネットによる参加の申込みを受け付けます。農業土木学会のホームページをご参照のうえ、ご利用ください。

## 1. 開催要領

(1) 開会式：8月28日(火)9:30~12:00

会場：くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)  
松江市学園南121

受付開始：8:45~

(2) 交流会：8月28日(火)18:00~20:00

会場：ホテル一畑2F「平安」の間  
松江市千鳥町30

(3) 講演会：8月28日(火)、29日(水)、30日(木)

会場：島根大学 教養講義室棟 1号館、2号館  
松江市西川津町1060

詳細は、プログラムとともに6月号に掲載する予定です。

(4) 現地研修会：8月31日(金)

中海干拓と神話のふるさと探訪コース

大規模農業土木事業である国営中海土地改良事業およびこれに関連する国営農業用水再編対策事業斐伊川沿岸地区や、出雲神話に代表されるこの地方固有の風土と農業農村の歴史を紹介しま

す。

【8:20 JR松江駅(南口)集合 8:30 出発 15:50 頃出雲空港着  
16:30 頃 JR松江駅着】

- ・中浦水門(松江市八束町)
- ・豪農屋敷(斐川町)
- ・斐伊川の砂堰(斐川町)
- ・荒神谷遺跡(斐川町)

\*経路は変更になる場合があります。また、申込みが少ないときは中止する場合があります(最少催行人員：約20名)。

## 2. 参加費用

(1) 参加費用と内容：次の表をご覧ください。

	予約申込		当日申込			
	一般	学生	一般	学生		
CD-ROM版講演要旨集	全員配布		当日配布			
大会概要集	当日配布		当日配布			
申込締切日	6月29日(以降は受け付けません)		大会当日			
支払締切日	7月31日		大会当日			
印刷製本版講演概要集	希望者のみ	なし	なし			
会員種別	一般	学生	一般	学生	一般	学生
参加費	¥9,000	¥7,000	¥5,000	¥3,000	¥7,000	¥5,000

(2) 交流会 一般 5,000円 学生 2,500円

(3) 現地研修会 4,500円(昼食代1,000円を含む) 事前予約制とします。申込み締切は6月29日(金)。

## 3. 申込方法

参加申込みは、ホームページまたはファックスにて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからのお申込みにご協力ください。なお、電話でのお申込み・お問合わせはご遠慮ください。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書(ファックス用)の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してファックスにて速やかにお知らせください。

(1) ホームページによるお申込み

農業土木学会のホームページからお入りください。  
<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>

(2) ファックスによるお申込み

下記宛にお申込みください。

近畿日本ツーリスト(株)山陰支店気付 農業土木学会大会受付係

FAX 0852 27 8359

## 4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いに対応いたします。

お振込みの方は、7月31日(火)までに下記の指定銀行口座へ

お振込みください。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

口座：三井住友銀行 関東第一支店 普通口座

口座番号 5664011

近畿日本ツーリスト株式会社（キンキニッポンツーリストカブシキガイシャ）

6月29日（金）までに参加申込みされ7月31日（火）までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたします。これまでは、会社経費・公費等による申込は当日申込と同様の扱いとしていましたが、今年度は予約申込と同じ扱いとします。

お支払いいただいた参加費等の払戻しには、原則として応じかねます。

#### 5. 講演要旨集の事前送付について

6月29日（金）までに参加申込みをされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申込みされた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ7月31日（火）までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計（一般11,000円、学生9,000円）を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨、ご明記ください。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

#### 6. 宿泊等の斡旋

本大会の参加申込み受付業務を委託している近畿日本ツーリスト（株）山陰支店が、宿泊手配のお手伝いをしています。宿泊に関するご案内は、すべてホームページ上で行います。また、コンピュータによる自動在庫管理を行いますので、ホームページからの申込みに限らせていただきます。学会ホームページのリンクをご覧ください。

#### 7. 昼食

講演会場での昼食時の弁当販売はいたしません。大学生協および周辺の食堂、飲食店等をご利用ください。

#### 8. 会場までの交通案内

- (1) 開会式：くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）

JR松江駅より徒歩7分

JR松江駅よりバスで3分「松江駅・メッセ方面」行き「くにびきメッセ前」下車

当日は、開会式会場から講演会場までバスを手配します。

- (2) 講演会：島根大学松江キャンパス 松江市西川津町1060

JR松江駅（北口）より

松江市営バス 北循環線内回り「島根大学前下車」（所要時間約15分）

一畑バス 美保関ターミナル・東高校・ソフトビジネスパーク 各方面行き「島根大学前下車」（所要時間約15分）

JR松江駅より

タクシー 約10分

- (3) 交流会：ホテル一畑2F「平安」の間 松江市千鳥町30

JR松江駅よりバスで11分、松江しんじ湖温泉駅下車徒歩3分

当日は、大学から会場までバスを手配します。

#### 9. 問合わせ先

- (1) 参加申込み・宿泊等に関するお問合わせ

近畿日本ツーリスト（株）山陰支店

農業土木学会受付係 担当：芦田，水野

〒690 0887 松江市殿町171

☎0852 22 4893

FAX 0852 27 8359

E-mail:ashida.920894@mb.knt.co.jp

- (2) 大会全般に関するお問合わせ

平成19年度農業土木学会大会運営委員会事務局

〒690 8504 松江市西川津町1060

島根大学生物資源科学部 木原康孝

☎0852 32 6557

FAX 0852 32 6499

E-mail:kihara@life.shimane-u.ac.jp

### 「農業土木学会学術基金」の募金について（再）

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資

するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業土木学会学術基金

郵便振替:00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

## 平成19年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について(再)

### 学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成19年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申込下さい。

#### 記

1. 援助の対象:農業土木学会の会員(学生会員含む)、または会員によって構成されるグループ

#### 2. 援助方針

(1) 農業土木に関する特定の分野および学際的の分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。

(2) 平成19年度中(平成19年4月から20年3月)に海外で

開催される国際学会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていない場合でも、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成19年3月30日(金)

5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。

6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail:suido@jsidre.or.jp

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jpでお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

**学会誌掲載報文等による通信教育について**  
**農業土木学会行事企画委員会**  
**農業土木技術者継続教育機構通信教育部会**

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。是非、通信教育にご参加下さい。

**1. 参加会員の募集**

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX( 03 5777 2099 )でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申しいただく必要はありません。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

**2. 申込期限**

参加は、いつからでも可能です。

**3. 事務局**

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

**4. 内容**

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

**5. 参加費**

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと**  
**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について**

農業土木学会では、2003 年 1 月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007 年 3 月末には Vol 5 No.1 が発行される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発行スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年3月末にはVol.5 No.1が発刊される予定です。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor (14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**編集事務局の移転**：2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間（～2008年12月31日まで）、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本（農業土木学会）の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**新投稿先**：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821  
Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

**編集体制** 2006 .1 .1～2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)  
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社**：Springer Verlag社（ドイツ）

**投稿資格**：筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等**：http://www.jsidre.or.jpに詳細を記載しています。

**農業土木学会誌への投稿お待ちしております！**

**農業土木学会誌編集委員会**

**自主投稿原稿の募集**

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

**学会誌 75 巻の小特集のテーマ**

小 特 集 テ マ	要 旨 締 切 ( A 4 判 1,500 字以内 )	原 稿 締 切 ( 刷 り 上 り 4 ページ厳守 )
4 号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理 ( ) ( 仮 )	公募終了	
5 号		
6 号 大会関連	公募なし	
7 号 持続循環型農業農村技術開発 ( 仮 )	公募終了	平成 19 年 4 月 13 日
8 号 農地・水・環境保全向上対策に向けて ( 仮 )	公募なし	平成 19 年 4 月 30 日
9 号 農地からの土壌流出及びその対策 ( 仮 )	平成 19 年 3 月 23 日	平成 19 年 5 月 15 日
10 号 農業農村分野における GIS の活用 ( 仮 )	平成 19 年 4 月 25 日	平成 19 年 6 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 ( 社 ) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて  
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

**75 巻 9 号テーマ「農地からの土壌流出とその対策」**

降雨時に農地から土壌が流出すると、下流側の水質環境にさまざまな影響を及ぼすことがあります。具体的には、土粒子とともに流出した栄養塩による閉鎖性水域の富栄養化、土粒子そのものによる河川の濁り、また土粒子を含む河川水が湖沼や海域まで到達した後の濁りの長期化や岸辺での土粒子の堆積、といった事例があげられます。農山村地域では本来、森林や水田の存在により表土が流出しにくい土地利用管理がなされてきましたが、近年の農山村を取り巻く状況の変化から、その保全管理が十分なされないことに起因して、土壌浸食とそれに付随した問題の発生が懸念されているところです。

土砂の流出量は、土壌の特性だけでなく、農法や地形・植生・気象条件等によって変化します。そのため、土壌流出に対しては農地それぞれの特性を考慮した対策が必要となり、現象解明を目的としたさまざまな調査研究と、その抑制にむけた対策手法が積極的に取組まれてきました。

そこで、農地からの土壌流出に焦点をあて、土壌流出にかかる室内実験・現地観測など、現象解明を目的とした最先端の研究報告や、農地や水路における流出抑制対策手法、または土地利用や水利管理による広域的な土壌流出抑制にむけた取組み、にかかわる報告を募集します。

**第 75 巻 10 号「農業農村分野における GIS の利活用」**

GIS ( Geographic Information System : 地理情報システム ) は、位置情報や属性を持った空間情報をレイヤー化して、コンピュータを用いて重ね合わせて加工・管理し、高度な分析や解析を行い、結果を視覚的に表示させるシステムです。米国、カナダでスタートした GIS 技術は、1980 年代以降、衛星による位置情報システム ( GPS ) やリモートセンシング ( RS )、各種シミュレーションやデータベース、インターネットなど、さまざまな先進技術と連携することで、応用分野は非常に広範囲となり、またその利用は急速に拡大しました。

農業農村分野においては、これまでに土地利用情報、農業水利施設情報、ため池情報、農道・流通拠点施設情報など、さまざまな情報について GIS のデータ基盤整備が進められ、平成 18 年度からは水土里情報利活用促進事業が導入され、更なる利用普及を推進しているところです。実用面で、GIS は農地や用水の利用調整や営農管理のほか、農業水利施設の維持管理、ハザードマップの作成、防災情報の伝達、環境配慮対策への支援など、多方面への利活用が期待されています。また、より良い利活用のためには、農林水産省、都道府県、市町村、農協、農業委員会、土地改良区

など、各種の農業関係機関や教育研究機関の間で情報の共有化をはかることが最大の課題となっています。

そこで今回の小特集では、農業農村分野における GIS の利活用

をテーマとして、これにかかる最新の研究事例、先進的な利活用事例、開発されたシステム、情報共有化の取組みなどについての報告を公募いたします。

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷上がり1ページ1,800字程度**で、写真を1~2枚程度入れてください。

**私の勤める本**は、原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

#### 「水土の知（農業土木学会誌）」平成20年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1~12月号)のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

#### 記

##### 1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかっていくようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

みなさんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣

間見える造形美」を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

##### 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定）撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

##### 3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

##### 4. 締切 平成19年3月30日（秋季～冬季の写真）

##### 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してどっと崩れない、ことが採用の条件となります。